

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム 星の家 (2F 織姫)		
所在地	北海道札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号		
自己評価作成日	平成30年6月3日	評価結果市町村受理日	平成30年7月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『グループホーム星の家』は、入居者様のご家族や、地域の方々には温かく見守られながら月日を重ね、間もなく丸15年を迎えようとしています。1階のユニット名が『彥星』、2階が『織姫』です。山や海が近く、空気が美味しいせいなのか、食欲が衰えないせいなのか、毎日体操もされ、よく笑われるせいなのか、どの入居者様も、所どころある身体の故障箇所を庇いながら、お元気に生活されています。認知症や介護度が徐々に進行しても、出来る事は沢山あり、職員が教わる事も少なくありません。しばしば受け入れている初任者研修実習生の殆どの方が、「何でもできる普通のおじいちゃんやおばあちゃん、ほんとに大家族みたいですわね。」と言われるように、まさしく『大家族』という表現がぴったりの所だと思います。満99歳や98歳の入居者様も、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯干し等々、ホームではまだまだ現役です。気心が知れ、一緒に過ごす時間が長くなると、身内のような錯覚に陥りがちですが、今後も、職員は心をつ一つにして、理念に掲げられている『人格の尊重』を心に刻み、日々感謝の気持ちを忘れずに、愛され信頼されるホーム作りに動してみたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年を迎えるグループホーム星の家は、最寄りの駅やバス停から至近距離にあり、家族や知人が来訪しやすい環境にある。周辺は山や海が身近にある閑静な住宅街に位置している。代表者は、身内の介護経験から得たノウハウを活かしてケアの充実に努めている。開設時より家族や町内会から理解と支援を得ている。運営推進会議には複数の出席があり、防災等の課題は地域全体として話し合われている。職員は、家事など利用者の持てる力を発揮出来る場面作りに努め、家族の一員としての役割を担うことで生活意欲の向上に繋がっている。昼食を一緒にとっている時に、利用者から「初めはどうなるかと思ったけれど、食事は美味しいし、背中を流してくれるし、習字も習わしてくれるし、ここにいる人は皆やさしい。友達も出来てここに来て本当に良かったと思う」との言葉があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念をフロアや休憩室に貼り、共有するように努めている。人格の尊重、楽しみのある生活空間作りを心掛け、実践に努めている。	利用者を主体としたケアのあり方と地域との関係性を謳った理念を策定し、日々実践に努めている。理念を事業所の随所に掲示し、さらにパンフレットにも記載するなど、職員のみならず来訪者への周知に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、ごみ拾いや、花壇整備に参加したり、盆踊りに参加したりしている。敬老会では、町内会合唱団の方や、近くの保育園の園児さん方にも参加していただいている。	町内会とは相互の防災訓練に参加があるなど、行事を通じて良好な関係にある。年2回訪れる保育園の園児との交流は利用者の生活意欲になっており、職員もまたケアの本質に触れる機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、行事やホームでの活動内容、支援の方法等について報告している。また、電話で認知症の方のご家族からの相談に応じることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リビングにて2ヶ月に1回開催。入居者様、ご家族、町内会役員の方、地域包括支援センター職員にも参加して頂き、活動状況や予定の報告、ご意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	会議は、複数の町内会役員、家族、利用者や地域包括職員の出席の下、定期的に開催している。活動内容や事故、ヒヤリハット、夜間業務の実態、避難訓練等を報告し、事業所の理解に繋げ、出された意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業指導担当者や区の保護課や福祉課の職員と連絡を取り、事業報告や必要な各種手続きを行っている。又、運営やサービス等について相談、助言を頂いている。	各種報告など運営上の連絡事項や課題に対して各担当者と協力体制が構築されており、情報や意見交換が行われている。区主催の企画により見学者を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より『身体拘束廃止委員会』を設置。運営推進会議を活用し、2ヶ月に1回開催。状況報告や検討を行っている。職員間では最低月に1回は話し合いの場を設けている。玄関の施錠は、防犯上夜勤者が各フロアに1人となる夜間のみとし、日中は解錠している。	身体拘束廃止への理解に努め、適切なケアの実践に心掛けている。課題が発生した場合は、家族の同意は基より職員間でも慎重に協議をし、経過観察の上、早期解決に向けた取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待防止法』については研修等で学ぶ機会を持つことで、職員各自が自覚をもち、チーム内で互いに注意を払い、虐待へつながらないケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている入居者様もあり、担当者来訪時に報告やお話をする機会がある。制度の理解については内部研修やテキストで学ぶ機会はあるが活字での知識が多いため活用できるように学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書や重要事項説明書、その他同意書等について、入居者様やご家族に説明し、ご不明点等がないかを確認したうえで納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時等にご要望を伺うようにしている。年に1回無記名アンケートも実施し、ご意見やご要望を確認している。また、各階にご意見箱を設置している。第三者機関への相談窓口を掲示している。	利用者や家族が何を望んでいるのかを念頭に置き、コミュニケーションを取っている。関わりの中や年1回の家族アンケートで得られた要望を受け止め、運営やケアの向上に活かしている。感謝の言葉は職員の意欲向上になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでや、日々の申し送り、職員の個別面談時に、意見や、要望を聞く機会を設け、反映させるように努めている。	代表者は、食材の調達などサポート役に徹し、管理者も日常業務や年1回の個人面談で職員の要望を把握するなど、就業環境の整備に努めている。提案により出前が実現し、食の変化により食欲増進が見られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数やスキルをベースとし、給与水準や休日等、個々の職員が働きやすいよう環境整備に努めている。食事の補助も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の経験年数や力量、参加度に応じて参加の機会を設けている。研修後はミーティングで報告し、他の職員も学ぶ機会を得ている。内部研修は毎月テーマを決めて実施し職員のスキルや意識向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者会議や研修会、地域のイベント等で、同業者と交流する機会を作り、相互訪問、情報交換ができる関係性をつくることで、サービスの質の向上に生かしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者やケアマネが得た情報をもとに、ご本人やご家族が困っていることや不安な気持ちの一つひとつ受け止め、少しずつ距離を縮めることができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、管理者やケアマネが得た情報をもとに、ご家族の不安な気持ちや要望をじっくり受け止め、少しでも安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者やケアマネが面談した情報をもとに、職員間で、必要とされている支援が何なのかを見極め、インフォーマルサービス等の利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援が必要な場面はさり気なくフォローする一方、できるお手伝いをして頂いたり、昔話を教えて頂いたり、共に暮らしている者同士という関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や外出時に、ご本人とご家族が楽しい時間を過ごし、絆を大切にできるよう配慮している。面会時や、電話でお話する際は、近況報告も忘れずに行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、知人の来訪時は、居室でゆっくり過ごしていただいている。また、外出時には、ゆっくり楽しんで来られるよう送り出している。ご家族と入居前のご自宅に外出される方もおられる。	利用者の馴染みの人や大切な人との繋がりを把握し、面会者を歓待し電話、手紙の取り次ぎなどを支援している。家族の協力で美容室や自宅訪問、外泊等が実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格・価値観・認知度の違いを把握したうえで、入居者様同士が不快な思いをされないように努めている。気の合う方同士がお話し易いように配慮したり、職員が介入することで笑顔のみられる空間作りを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族で、年賀状のやり取りが続いている方や、懐かしんで立ち寄られる方がおられる。入院により退居された場合は、職員がお見舞いに伺うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や何気ない表情から、個々の思いや希望を受け止め、チーム内で情報を共有し、出来るだけご本人の意向に沿えるよう努めている。	関わりから得た些細な言葉などの情報を介護記録や申し送りで共有し、買い物に行きたい、寿司桶に入ったお寿司が食べたいなどの要望を取り入れている。利用者と話し合っ、花壇の一角に野菜の苗を植えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、入居時の基本情報をもとに、ご本人やご家族から得た生活歴や生活環境に関する新たな情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の様子を把握しながら、声かけ・見守りを行い、無理なく出来ることへの支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のミーティングや、日々の申し送り、また、必要に応じて話し合いの場を持ち、ご本人やご家族、関係者の意向も反映して介護計画を作成している。	介護計画の見直し時や急変時には、担当職員による目標項目の評価後に全職員で利用者や家族の意向、介護記録、医療関係者の助言を踏まえた意見交換を行っている。介護計画の実践は、介護記録で確認出来る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や新たな気づきを記録に残し、チーム内で情報を共有し、介護計画や、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院への送迎や同行をしたり、ご家族に代わって入院時の書類の記入や確認をすることがある。入居者様のご家族との電話の際に、ご家族様ご自身の悩み相談に対応することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩やドライブ、外食、買い物等で、外出の機会を作り、地域資源を活用しながら安全で豊かな生活が継続できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診については入居時に同意書をいただいている。かかりつけ医の往診は入居者様お一人につき月2回あり、健康を維持できるように支援している。歯科医による定期的な往診も行っている。	殆どの利用者は月2回の訪問医を主治医としている。他科や従来のかかりつけ医への受診は、家族と協力して支援をし、健康状態を共有している。看護職員による週3回の健康チェックもあり速やかな受診態勢を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の気になる様子や心身の変化についてその都度看護師に相談や報告をし、適切な看護を受けることができるようにしている。状況に応じて、医療との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、診療情報提供書や看護・介護添書を提出したり、口頭で必要なことを伝えている。入院中は、面会時に病院の職員から情報を得たり、電話で経過確認をし、退院に向けての話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応について説明をし、ご家族（キーパソン）から同意書をいただいている。ミーティングで、終末期に向けての研修を行い、必要な対応についての話し合いをしているが、現時点での対象者はいない。	ここ数年ターミナルケアは行われていないが、契約時に重度化や終末期の指針を説明し、同意を得ている。急変時には再度意思確認を行い、医療関係者や家族と情報を共有し、チームケア対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、夜間は上下階で協力のもと行うことを申し合わせている。応急手当や初期対応については、研修等で学ぶことはあるが、定期的な訓練はあまりしていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方々との協力を得ながら、定期的に避難訓練を実施している。担当職員は交代で行い、それぞれが身につけるようにしている。	消防署や地域住民の協力を得て、年4回自主訓練を含む夜間想定避難訓練と水害を想定して、1階の利用者と2階への移動訓練を実施している。地域住民を含んだ連絡網や備蓄品の整備、避難場所や経路の確認を行っている。	全職員による救急救命法の継続的受講を考慮しているので、その実行に期待したい。また、地域ぐるみで防災対策に取り組んでいるが、事業所と地域が相互に協力し合う防災体制構築に向けた連携強化に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を歩んでこられた入居者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーやプライドを損ねないような言葉かけに努めている。	管理者は、都度職員に理念の中に人格の尊重を掲げていることを伝えるなど、接遇への正しい理解に導いている。入居時に希望する呼び方を傾聴しているが、「さん」づけを基本とし、個別の記録もアルファベットで表記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、入居者様の表情や言動からご本人の思いを大切にし、ご自身で思いを伝えることができるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで忙しそうに動くのではなく、個人個人のペースや生活習慣を大切に、希望に添って暮らしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室を利用されたり、ご家族と馴染みの美容室に行かれたり、毎日お好みの洋服を選ばれ、お化粧をされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、刻み、盛り付け等の準備や、食器拭きなどの片付けは、入居者様の力に応じて、一緒に行っている。昼食は、職員も入居者様と同じテーブルでコミュニケーションをとりながらとっている。	代表者が食欲に繋がる献立を作成し、食材も調達している。時には、チャーハンなどで腕前を発揮している。利用者と一緒に3食手作りを基本としているが、行事食やおやつ作り、外食、出前なども企画し、食事に変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューを基に、無理なく摂取できるよう、一人ひとりに合わせた食事量や必要な水分量を配慮し提供している。むせ込み防止のためトロミ剤の使用が必要な方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助により、口腔内の清潔保持に努めている。状況に応じて歯間ブラシや舌ブラシも使用している。定期的に訪問歯科の往診も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人に合わせて声掛けや介助を行い、気持ち良く過ごしていただけるよう自立に向けた支援に努めている。	自主排泄の利用者もいるが、全員の排泄チェック表を基に言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄支援に努め、失敗の軽減を図っている。布下着の着用を基本とするなど、利用者の尊厳にも配慮が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い物を取り入れたり、必要な水分確保に努めたり、体操や運動等体を動かす機会を作ったりしている。医療との連携を図り、下剤の調整による排便コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は職員の都合で決められているが、その日の体調や思いを大切に、声掛けのタイミングを見計らうなど配慮している。浴室では、一人ひとりに合わせてコミュニケーションが楽しめるように努めている。	入浴は同性介助に配慮し、午後から週2回ほどを基本としている。身体状態に合わせ、バスボードの使用や、複数介助を行いながらゆったりとした会話を心掛けている。得られた情報を介護計画に反映することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に応じて日中休息の声掛けをして休んで頂いたり、ご本人の希望に応じて居室で休んで頂いている。安心して気持ちよく眠れるように声掛けや環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに保管している薬の説明書や連絡ノートにて、薬の効用や副作用を確認し介助している。症状に変化が観られる場合は看護師に報告・相談をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理念の中に『楽しみのある生活空間作り』が掲げられており、毎日張り合いや喜びをもって生活できるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季間は、散歩などの外出は難しいが、春は花見、夏はドライブ、秋は紅葉見学、他に外食のレク等も行い、楽しんで外食できるよう支援している。家族の協力にて度々外出される方もいる。	天候や利用者の体調を見極め、周辺の散歩や買い物、菜園の水やりや花、野菜の生長を眺めたり、玄関前のベンチで日光浴をするなど、外気に触れる機会作りに努めている。ドライブがてら近くの海を見に行ったり、外食など家族の協力を得ながら外出行事を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時、お金はホームでお預かりすることに同意を頂いており、買物等の必要時はすぐに使用できるようになっている。なかには、安心感を得るため財布に2千円程度入れ居室に置かれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、できる限り添うよう支援している。手紙が届いた際は、ご本人の希望により代読し、返事の代筆をすることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、不快な思いをされないように清潔保持の他、温度や湿度調整、TVやCDの音量や光の調整等にも配慮している。又、日々の生活の中で季節感が得られるように、四季に合った飾りつけを壁や天井に入居者様と一緒にしている。	ユニットごとに雰囲気の違いはあるが、採光や空調、清掃、音量に配慮がある。共用空間には、行事での写真やホーム便り、夏をイメージした利用者の共同作品、塗り絵や習字の力作が飾られており、利用者の自信や持てる力を引き出す工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時間以外は自由に座って頂いている。入居者様同士椅子を寄せてお話されたり、数人でアクト作業をされたり、お一人で新聞や本を見られたり、塗り絵をされたり、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅を訪問したり、ご本人やご家族と相談したりし、馴染みの品を居室に置くことで安心感につなげている。写真や塗り絵等ご本人の作品も掲示し、居室内が殺風景にならないようにも心掛けている。	クローゼットが設置されている居室には、ベットを使用したり、床に寝具を敷くなど、利用者や家族の意向を踏まえ現状に即した支援を行っている。持ち込まれた調度品類も動線に配慮して置かれ、壁面にはポスターや趣味の物が飾られており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札や顔写真を掲示したり、トイレ前に立体的な表示をしたりし、分かりやすく工夫している。また、廊下や階段、EVホールには、安全に配慮し手すりを設置している。		